

# 木村吉次先生の スポーツ博物館 設置構想

## スポーツ博物館設置構想

### 1. スポーツ博物館の理念

本学がスポーツ博物館を付置する意義はきわめて大きいと思われる。日本博物館協会の調べによれば、日本で博物館と呼ばれる施設は1985年度で2500館。そのうち、大学が付置する博物館は国・公・私立併せて56施設がある。欧米では古くから博物館を持つ大学が多く、特に米では国内の総博物館の約45%が大学博物館で占められている。又、韓国では大学設置基準によって博物館の設置が規程されている。博物館にとって大切なことはコレクションの充実と、正しく運営され、その機能を十分に果たしていくことである。その機能は、博物館を訪れる人達が十分に楽しみ、知識と情報を得られることであるが、大学が付置する博物館となれば単にコレクションの陳列＝「展示」という場から、学生の学習を助け、研究者にとっては研究資料として役立ち、さらにはそれらの成果を発表する場所となる。いわば「教育・研究」の場という機能を併せ持つことが要求される。欧米においても、大学に設置される博物館は長い歴史を経てこうした「展示」の場から「研究・教育」の場へと機能変化したものとされている。

現在、我が国で、スポーツ博物館を設置している大学は一つもない。本学の体育学部が中心となって全国に先がけてこれを設置することになれば、全国的にみてユニークな存在になり、そのインパクトは少なからぬものと予想される。

スポーツは、その発祥から現在に至るまで時代を問わず社会の文化として人間生活に様々な意味を与えてきた。これからの社会においてスポーツは競技スポーツと並んで生涯スポーツが大いに推進されると予想されるが、多くの人が見学に訪れ、人間社会におけるスポーツの歩みを正しく理解し、すぐれた身体的営為から感銘を受け、自らスポーツ活動に取り組んでいくような意欲をよび起こすような施設を作ること、大学の持つ研究・教育の機能の一つの発展として社会に貢献していく方法でもありと考えられる。

本学の体育学部が30周年を迎えるにあたり、記念行事の一環として本学関係者を中心としてオリンピックに関する展示を企画している。これを機会に将来中京大学にスポーツ博物館が設置される方向に向かって準備を進めていくことが望まれる。

### 2. 博物館の名称(仮称)

スポーツ博物館

### 3. 計画の進め方

#### 1) スポーツ博物館設置準備室を開設する

<設置準備室構成>

- \* 法人本部
- \* 教学側

#### 2) 年次計画

- \* 平成2年度、体育学部30周年記念行事の一環としてのオリンピックに関する展示物収集をスタートする。
- \* 準備室は、以後2ヶ年を準備期間として展示物、資料等の収集・整理につとめ、その後の本格的博物館の設置のための準備をする。

### 4. 博物館の性格け

- 1) オリンピックを中心としてスポーツ博物館としての特徴を明確にしてその内容の充実を図る。設置後の運営方法には特に留意する。
- 2) 他の既設のスポーツ博物館とは競合しない独自の視点を持ち、大学博物館としての特色を併せ持った博物館とすることを眼目とする。これに関しては以下のような点が考えられる。

<展示物>

展示物は必ずしも実際に使われたものということではなく、その時代に使われていた模型であってもいい、例えば、棒高跳びの棒、スキーの板、ウエアなどの時代の変遷と研究の成果ができれば、展示紹介の目的は達せられる。

<歴史的分析>

オリンピック競技の発展史を系統的に紹介する。このためオリンピックについての調査・研究を進め、正確な記録を整備することが必要となる。

<科学的分析>

オリンピックとの関連でスポーツ科学的解説を、文学・ビデオ・写真・人体・模型・実験器具等を使って紹介する。

<各種目の情報提供>

オリンピックに関する図書・雑誌・フィルム・写真等の資料を収蔵し学内の利用に供する。

### 5. 博物館の規模と設置場所

#### \* 設置場所は豊田学舎とする

スポーツ博物館は、大学における研究成果をもとに充実した内容をもつことができる。その意味で、専門学部である体育学部と深いかかわりを持つ博物館が学内の同じ場所に設置され、機能的に運営されることが必要であり、これを拠点として学際的な協力を進め知名度を上げることが期待できる。又、豊田学舎が名古屋東部研究学術ゾーンに入っているため、他の施設との関連もあり、これを訪れる人々にも好都合である。

#### \* 建物の規模

設置準備室で年次計画をたてて検討。

### 6. 予算措置

設置準備室で計画的に予算立案する。

### 7. 行政とのかかわり

博物館を構想する場合、地域の文化行政とのかかわりは重要なポイントでもある。豊田市21世紀に向けて「健康・文化」をテーマにスポーツ振興も長期構想として取り組んでいるようです。本学の構想するスポーツ博物館がこういった行政の枠組みの中で展開され、互いに協力して進められることになればより充実した内容となることが考えられる。設置準備室が発足し、具体的な計画が進むなど大学の準備が整い次第、機会あるごとに接触を図っていく。